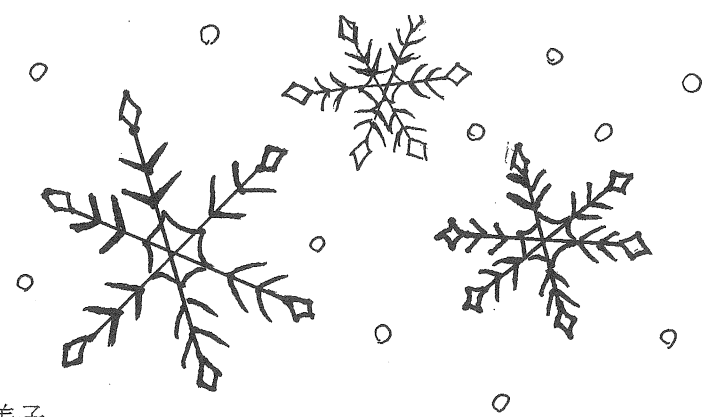


2月の 園便り



28年新潟青陵幼稚園 加藤由美子

雪が積もった景色は素敵ですね。秋には赤や黄色の色を付けていた木々が葉を落として、素の枝の真の美しさを表していましたが、今度はその枝に白く柔らかな雪が被さって、まるで清められたかのような美しい姿になります。

初めて雪が降ってきた日、朝早く“光の部屋”に来ていた“星の子”の子どもたちは、雪に大喜びをして、そして、そのあと30分ほど、ずっと窓から空を見上げていたそうです…珍しい光景です。子どもたちが長い時間じっとしたまま空を見ていたなんて…活動的な子どもたちがじっと見入っていた雪、子どもたちにとって雪は、特別素敵で神秘的に感じられるのかもしれませんが、空から生まれ出てくるかのようにふわふわと降りてくる雪は、大人も見ているとつい引き込まれてしまいますね。

子どもたちには、こうした美しさを感じる感性が備わっているのでしょうか。長い時間雪と対話をしている子どもたちは、センス・オブ・ワンダー（神秘さや不思議さに驚く感性）を持っているのでしょう。長い時間じっとして雪を見ているような姿は、大人の余計な関わりがないところ、そして自分の内面で対話ができる、ゆったりとした時間に、表されてくるように思います。こういう静かな時間を持つことは、子どもたちの内面が育つ大切な時間です。この時間は幼稚園という集団生活の場では、作りにくい時間です。子どもたちが内面と対話できる静かな時間を作ってあげるのに最適なのはご家庭ですね。いつもはとてもよく遊んでいるのに、めずらしく考えごとをしているような姿があったなら、もしかしたら、雪や風や空や雨と対話をし、内面を耕している時かもしれません。大人は言葉を控えて、子どもの内面が育つ時と捉えて大切にしていってあげたいですね。

幼児期に雪や雨、そして草花や虫たち、こうした自然に触れる体験は、子どもたちが生まれながらに持っている五感を刺激し、感性の発達を促してくれます。自然の中で体験した驚きは身体に刻まれ、「なぜだろう」「どうしてだろう」と考える元となり、やがて、創造性を発揮することにつながっていくことでしょう。

「ゆきがふったら、ゆきがっせんしようね」「ゆきがふったら、ゆきだるまつくろうね」と子どもたちが誘ってくれます。これから園庭に雪が積もって、子どもたちと雪合戦をすることができるでしょう。つららもできるでしょうか、今年はカメの池がなくなって、氷を集めることができないけれど、バケツに水を張って、氷を作っておきたいです。雪も氷も、この季節にしか体験できない貴重な自然です。寒い季節を楽しみたいと思っています。

2月の予定

日	曜	給食	降園時間	行事
1	月	○	2:00	新潟小学校5年生さんが青ばらさんと交流会を行います。
2	火	○	2:00	
3	水	○	2:00	節分 豆まきをします。
4	木	○	2:00	
5	金	○	2:00	幼児教育学科学生さんによる劇や音楽を見に行きます。 新潟大学付属小学校1年生さんと青ばら1組さんの交流会があります。
6	土	×	11:30	自由登園日です。
7	日	/	/	
8	月	○	2:00	
9	火	○	2:00	
10	水	○	2:00	
11	木	/	/	建国記念日
12	金	○	2:00	
13	土	/	/	第2土曜日
14	日	/	/	
15	月	○	2:00	
16	火	○	2:00	
17	水	○	2:00	
18	木	○	2:00	
19	金	○	2:00	
20	土			のばら劇場です。詳細は各クラスからのお便りをご覧ください。
21	日	/	/	
22	月	○	2:00	
23	火	○	2:00	
24	水	×	11:30	誕生会です。2月生まれさんの保護者の方、ご一緒にお祝いしましょう。
25	木	○	2:00	
26	金	○	2:00	
27	土	/	/	第4土曜日
28	日	/	/	
29	月	○	2:00	